

長崎獅子舞の継承に関わった4年間 ～若者から中学生に引継がれた伝統

取組の背景・目的

- ・ 長崎獅子舞は、中高生センタージャンプ長崎のある地域に江戸時代から続く伝統芸能で、地元の長崎獅子連・保存会により継承されてきた。お腹に太鼓をつけた立ち獅子3頭と4人の花笠の構成に篠笛の伴奏がつくスタイルで、豊島区の指定無形民俗文化財に指定されている。
- ・ 太鼓を打ちながらの激しい動きのため、体力のある若手でもハードな長崎獅子舞。20代の若者数名が上の世代から引継ぎ取り組んできたが、次の世代への継承に苦慮していた。
- ・ 小学校では授業の一環として積極的に取り組むものの、後継者育成には至らない状況であった。
- ・ 6年前ジャンプ長崎の元利用者である大学生から、若手育成の協力について相談があった。そこで月に1回、卒業生による指導が始まった。
- ・ 4年前、コロナ禍の影響で練習成果を披露する場（神社奉納舞や秋祭等）が中止となった影響もあり、練習参加者が減少。対策として、長崎獅子舞活動を中高生の地域参加をサポートする「地域連携事業」と位置付け、積極的に取り組みを開始した。



民俗芸能inとしま

卒業生と一緒に高校生が出演

取組の概要

① 定期練習

施設内の図書コーナーにて実施（テーブル等を移動しスペースを確保）。月1回（最終水曜日が基本）午後5時～6時（1時間）が基本。練習は元利用者の大学生等が指導、職員1名がサポートで入る。



ジャンプ長崎での練習風景



長崎獅子連での練習の様子

② 長崎獅子連の練習に参加

近隣にある区長崎健康相談所講堂にて実施。月1回、午後6時～8時（2時間）にジャンプ長崎の練習後に移動し参加。練習は長崎獅子連の方が指導。職員は中高生に同行し練習に参加。

③ 練習の成果を披露する機会をつくる

区関連施設等に中高生の伝統芸能取り組みを披露する機会の提供を求める働きかけを行う。

④ 広報活動

毎月のお知らせ・区関連施設等の広報媒体にて、伝統芸能に取り組む若者の活動を積極的に宣伝。

工夫点・留意点

- ① 定期練習：卒業生による指導時に職員も積極的に関わることで、中高生の参加増をめざす。卒業生が就職により指導に来られなくなるのが想定されたため、職員が練習を運営できるよう篠笛に取り組む。
- ② 長崎獅子連の練習に参加：より本格的な大人の練習の場は中高生にとっては緊張感がある場のため、職員が同行しサポート。また獅子連の方と職員が顔の見える関係になることで若手育成に連携して取り組む。
- ③ 練習成果を披露する機会：中高生施設の強みを生かし、日頃から関わりのある区生涯学習施設等に、伝統芸能を通じて地域活動に取り組む中高生の発表の場を相談。
- ④ 広報活動：③同様に中高生の伝統芸能への取り組みの視点から、ジャンプのお知らせだけでなく区広報誌や社会福祉協議会の広報誌等への掲載を働きかける。

取組の効果

■1年目(令和3年) 練習参加のべ42人

- ・豊島区伝統芸能ドキュメンタリー映画「音鳴りやまぬ」試写会にて中学生が初めて人前で披露。
- ・東京芸術祭「ガリ版印刷発信基地」の一環として中高生が長崎獅子舞のZINE制作。

→映画では中学生が初めて獅子を舞うシーンを撮影。中学生が本格的に獅子舞に関わるきっかけとなる。

■2年目(令和4年) 練習参加のべ33人

- ・開館10周年イベントで初めてジャンプで披露
 - ・今後の練習を考慮し職員が篠笛の練習開始
- 部活等で多忙により来られなくなる中学生あり。一方で、ジャンプで興味を持ち参加はじめる高校生あり。



ドキュメンタリー映画試写会でのステージ出演

■3年目(令和5年) 練習参加のべ111人

- ・区内高校にて体験会実施
- ・地域文化創造館「としま深堀」イベント参加
- ・広報としま特集号(R6.2月号)に掲載

→練習・経験を積んだ中高生が伝統行事である長崎神社奉納舞でも活躍。若者活動としての獅子舞を披露する機会も増える。



区内高校での長崎獅子舞体験会



特集・勝り高き、このまらの伝説 長崎獅子舞

区広報誌の特集号表紙

■4年目(令和6年)練習参加のべ115人

- ・高校生の指導による練習が始まる
- ・区内高校の文化祭に出演
- ・中学生の編成で特養ホームのイベントに出演
- ・ジャンプ長崎の活動紹介動画を作成しYouTubeへアップ

→卒業生が就職により練習に来られない状況となったが、高校生が指導するようになる。職員は篠笛を習得し練習をサポート。

→中学生の参加が安定し基礎を習得したため、獅子3頭・花笠4人のフル編成を中学生のみで披露。



中学生による「ふんごみ」披露



出演会場へ向かう中学生たち

■ジャンプ長崎での練習風景の動画(豊島区公式としまななまるチャンネル内)

ジャンプ長崎での音楽活動等を紹介した動画に長崎獅子舞の練習風景も出てきます(1分13秒頃～)。



YouTube

としまななまるチャンネル「中高生センタージャンプ長崎での活動を紹介します」へ

課題・今後の展開

- ・中高生の参加が定着し、基本の舞い「ふんごみ」だけでなく複雑な「平舞」もマスター、これまでは20代の若者が舞っていた演目をこなす中高生も出てくる。踊り手は充実したが、踊りを支える篠笛の育成が課題となっている。
- ・小学生の練習参加が少なく、中学生に続く次の世代が増えるように地域小学校との連携を強化したい。